

科目区分	専門分野	授業科目	診療の補助技術
講師	看護教員	実務経験の有無	病棟での経験有
単位数(時間)	1単位(30時間)	開講年次	1年次 第2学期
授業概要 *講師からのメッセージ	限られた演習の時間を大切に活用するために、事前に手順等をしっかり読み込んでおいてください。安全な物品の取り扱いに留意し、実際の患者に行う思いで技術の習得を行っていきましょう。		
目的：看護実践の基礎となる診療援助技術を習得する 目標：1.薬物療法の意義・目的が理解できる 2.薬物療法を受ける患者に必要な援助の方法が習得できる 3.安全に与薬を行うシステムのあり方について理解できる			
回	授 業 内 容		授業方法
1	1. 薬物療法の意義 2. 薬物療法の基礎的知識 1) 薬に関連した法令 2) 薬物の種類 3) 薬剤の吸収・排泄のメカニズム (1) 吸収 (2) 分布 (3) 代謝 (4) 排泄 4) 薬理作用とその影響因子 (1) 主作用・副作用 (2) 薬理作用に影響を及ぼす要因		講義
2	3. 薬物療法における看護の役割 1) 薬物療法における看護師と多職種との関連 2) 薬物療法における看護師の役割 4. 薬物療法における安全確保の技術 1) 誤薬防止の基礎知識と実際 2) 医療廃棄物の取り扱い 3) 薬剤の管理(毒薬、劇薬、麻薬)		講義
3	5. 薬物療法における援助過程と与薬の技術 1) 注射法 注射薬の種類、注射実施上の事故防止と責任 (1) 注射の準備 (2) 注射の方法 ①皮下・皮内注射 ②筋肉内注射		講義
4	(3) 注射の方法 ③静脈内注射 ④点滴静脈内注射 ⑤中心静脈カテーテル法		講義
5	(4) 点滴静脈内注射の基礎 (5) 点滴静脈内注射の手順と留意点		講義
6・7	2) 注射法(皮下注射・筋肉内注射) ・薬剤の準備(アンプルからの吸い上げ) ・注射部位の選定、注射角度、シリンジの持ち方の確認 ・皮下注射・筋肉内注射の実際		演習
8・9	3) 注射法(点滴静脈内注射) ・薬剤の準備(バイアルからの吸い上げ) ・翼状針を用いた点滴静脈内注射 ・点滴静脈内注射の管理		演習
10	4) 経口的与薬法(固形剤、粉末剤、液状剤) 5) 口腔内与薬法(舌下錠、バツカル錠、トローチ) 演習：経口的与薬法、口腔内与薬法		講義 演習

11	6) 直腸内与薬法 (全身作用、局所作用) 7) 点鼻・点耳・点眼法・経皮的与薬法 演習：経皮・外用薬の投与	講義 演習
12	8) 持続硬膜外麻酔 9) 持続皮下注射法	講義
13	6. 薬物療法における安全確保の技術 1) 抗がん剤の人体への影響とその効果 2) 抗がん剤の安全な取り扱い 薬剤の管理方法、ばく露予防策について 3) 化学療法投与時の看護と有害反応への対処 (1) 血管外漏出の予防と対処 (2) 過敏症の早期発見と対応 (3) 有害反応へのセルフケア支援	講義
14	7. 輸血療法時の看護 1) 輸血とは 2) 輸血療法の適応 3) 血液型と交差適合試験 4) 輸血による副作用 5) 輸血時の観察と看護 6) 血液製剤の保管と管理	講義
15 (45分)	8. まとめ	
16 (45分)	終了試験 (45分)	
評価方法	筆記試験 (100点) 評価基準参照	
テキスト	医学書院：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学 [3] 基礎看護技術 II 学研：看護技術プラクティス	
参考図書	臨床看護技術パーフェクトナビ	
備考	既習関連科目：解剖生理学 I・II、薬理学 (総論)	